

鯉 1 本釣漁業試験並漁場調査

永 井 敏
 宇 野 守 一
 柴 田 光 夫

1. 目的

前年度に引き続き、鯉資源の分布状況並漁況と海況等を究明し、極めて歴史の浅い本県鯉漁業の技術向上に資する目的で本試験を実施した。

2. 方法

- (1) 期間 昭和 25 年 6 月 5 日から昭和 25 年 8 月 12 日に至る間
- (2) 海区 野島崎沖合から鯨角沖合に至る海區
- (3) 使用船 調査船茨城丸 (総噸數116噸 90 主機調 ディーゼル 250HP)
- (4) 乗組員 船長外 47 名
- (5) 漁具 1 本釣漁具

3. 経過概要 並調査結果

(1) 航海別調査結果

㊦ 第一航海

東北水研委囑の N39° 線上 500 湊横断海洋観測実施のため 6 月 7 日 鴨川で活餌を積込み、出港観測点に向ふ途中 8 日より 10 日迄鹽屋崎沖合で 烏付カツオ群多數に遭遇し 6,000 尾を釣獲した。

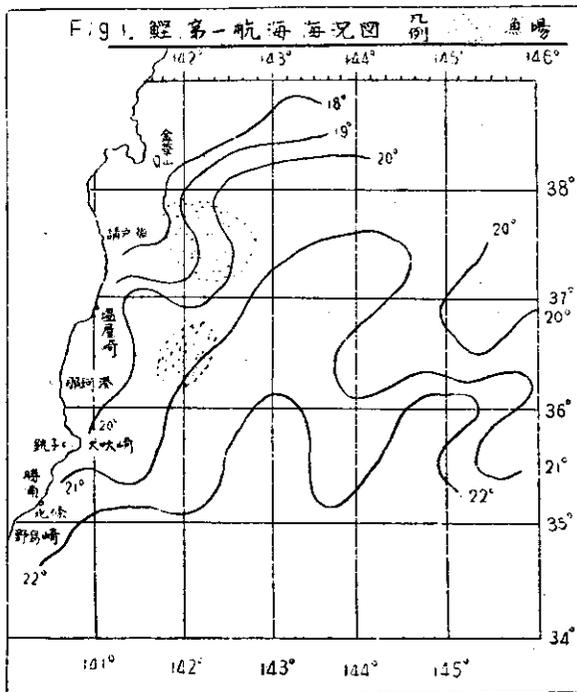
同海區漁場は水温 21°—23° 級よりなる北上主暖水帯内にあるが冷水帯の広範囲の分布のため複雑な海況を呈しており、殊に E143°—146° 附近を中心として入り込む冷水帯の發達は極めて強く此の兩側を伸長する 2 つの黒潮系暖水帯をすどく圧迫していた。

今航海の豫定横断海洋観測 500 湊は中止し 11 日那珂湊に帰港した。

(Fig.1 参照)

㊦ 第二航海

6 月 18 日館山港出港、今航海は犬吠沖 40—80 湊附近より北東に進む北上暖水帯に沿つて調査し、20 日鹽屋崎東方 60 湊附近の北上暖水帯の先端と思はれる水温 21°—22° 級海區にて調査操業したが、餌付不良の爲漁獲僅少、その後第 1 回調査海區附近より SE に向ひ、22 日鹽屋崎東方 180 湊附近海區に



て鳥付、鮫付鯨付の鯨群を發見したが、活餌衰弱著しき為餌付極めて不良であつた。24日野島東方 240—300 哩附近の鯨漁場を調査し、メバチ、カツラ、ビンナガ群を各所に於て多數發見するも漁獲成績は極めて不良であつた。

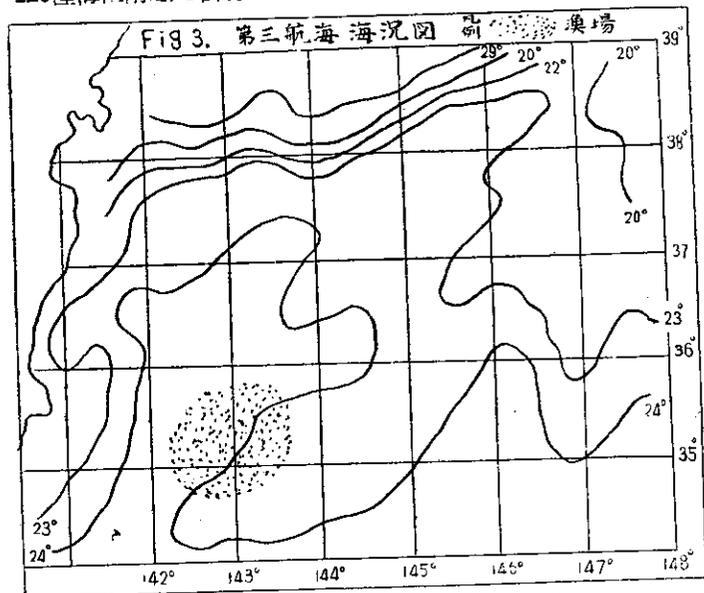
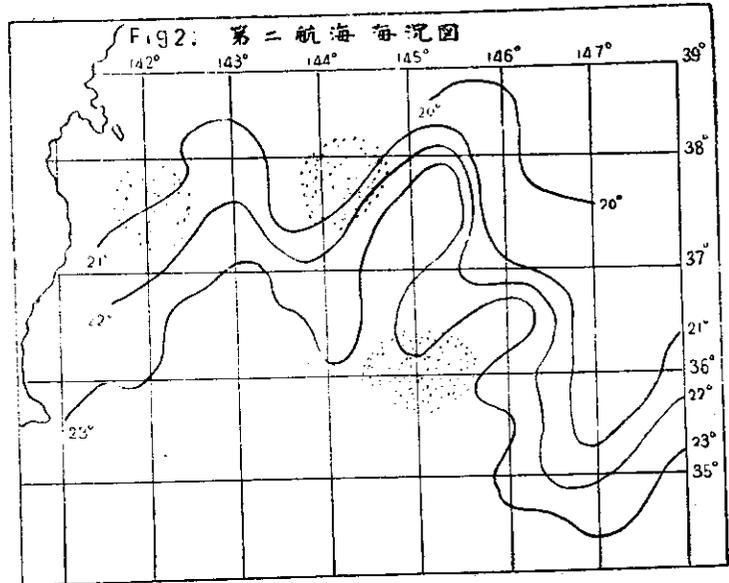
今航海調査海區の海況漁況を概略列記すると次の通りである。即ち水温 21° — 22° の暖流系水帯は犬吠沖より北東に進み $E143^{\circ}N38^{\circ}$ 附近に達しているが、前旬に引續き冷水帯の圧迫によりその進路は主流より E に分岐流を示しており、 $E145^{\circ}$ — $147^{\circ}N38^{\circ}$ 附近海區の外側を SW に大きく入り込む冷水帯に沿うて反転南下し、 $E142^{\circ}N34^{\circ}$ 附近に達しており、極めて複雑な海況を呈した。

今航海は水温 21° — 24° 級よりなるこの暖流系水帯に沿うて、(イ) $N37^{\circ}$ — 38° $E142^{\circ}$ 附近、(ロ) $E145^{\circ}N38^{\circ}$ 附近海區、(ハ) $E145^{\circ}$ — $146^{\circ}N36^{\circ}$ 附近、海區を調査し各所に於て好漁場を發見したが活餌衰弱により餌付は全く皆無であつた。(Fig 2 参照)

と 第三 次 航 海

7月 3日鴨川港出港、野島崎東方 120 哩海區附近で餌付カツラ、メバチ群を發見操業した結果、餌付良く 4,000 貫 (メバチ、カツラ混り) を釣獲し 6 日那珂湊港に帰港した。操業調査海區は北上暖水帯の流軸上にあつて水温 24.2° 級内外のカツラ、メバチ群で終日 1 回發見したのみで附近海區には群を發見することが出来なかつた。

尙今航海の海況は概略次の通りである。即ち東北東に伸長する暖流系水帯は著しく北上し、その先端と思考される水温 20° 級の水帯はすでに $N40^{\circ}$ 附近海區に達していた。この北上暖水帯に沿うて兩側に冷水帯が SW に張出してあり、この為暖水帯の両側には顕著な潮境を示していた。ことに岸よ

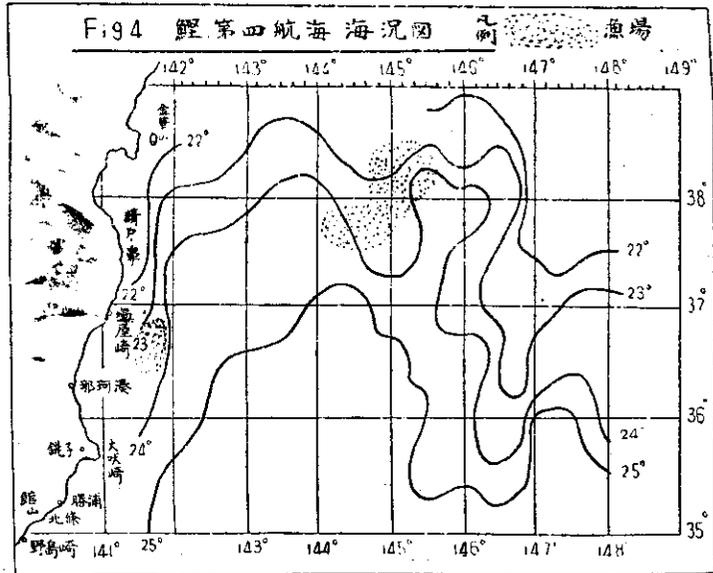


●にSWに張出す接觸部は極めて複雑な潮境となつていた。(Fig. 3 参照)

第四次航海

7月16日那珂湊出港、今航海は金華山に沿うて北上する黒潮主流上の鹽屋崎沖近海のカツラ沿岸漁場を調査すべく実施した。

水温 24° 級の暖流水帯は N38° 附近にあつて E に蛇行しながら北上し、前航海區同様岸よりは鋭い潮境を形成していた。鹽屋崎沖のカツラ漁場は水温 23° 級に被はれ 2—3 の魚群を見たが群は薄く少数群であつた。一方 E141° 48' N37° 41' 附近調査海區の東側も 24° 級水帯で鳥付大群が相當數發見されたが餌付は皆無であつた。同海區調査後更に北よりに調査し N38°—39° E145°—147° 附近海區のカツラ漁場を調査したが、同海

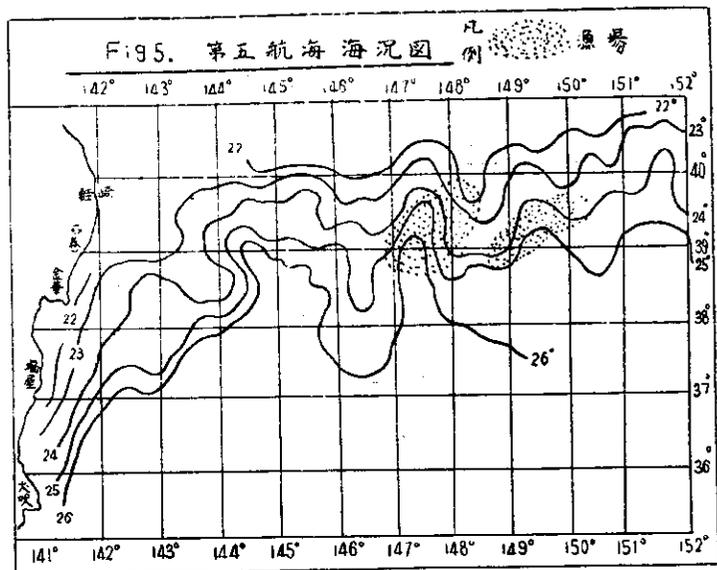


區は鳥鯨は大群が非常に多いが一般に餌付は極めて不良であつた。(Fig.4 参照)

第五次航海

7月16日鴨川港出港、20日より E148°30'—151° N38°30'—39°30' の海區附近でサメ付群を多

數發見したが餌付全く皆無同海區は E146°—148° 方面から南西に張出す寒流水帯の東側にあたり水温 21°—26° 級の水塊が各所に混在しサメ付カツラ群が最も多く發見された。又 E150° を中心とする一帯は何れも顕著な潮境が形成され複雑を呈した。これら海區漁場は水温 22°—25°C の水帯に鯉群の出現多く、魚体 4年魚が大部分を以て形成され、3年魚が僅か混成しているのみである。肥満度 21—23 を示した。(Fig.5参照)



第六次航海

7月30日鴨川出港、8月1日金華山東方 200 湊で鯨付大群を發見し操業したが餌付は皆無であつた。3日より同海區より北上しつつ調査し鯉崎ENE80 湊で鳥付トンボ中小群を多數發見操業したが

餌付不良、これら調査海區は岸よりに発達する黒潮系暖水帯に当り、南下冷水帯に阻まれ乍らも依然として強勢で殊に金華山沖より純崎沖に北上する水温 25° の水帯を中心とする暖水帯の兩側は極めて鋭い潮境が形成され、全般的に烏付、鮫付トンボ群が各所に発見されたが餌付は不良であつた。

(2) 魚体測定

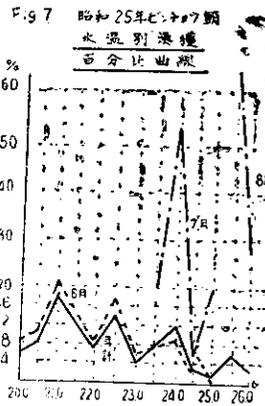
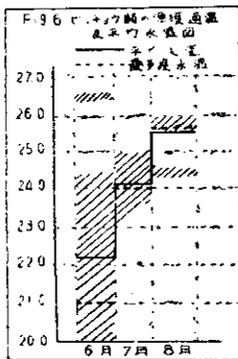
第2航海 E146° 20' N36° 35' 水23.6°の海區に於て釣獲したカツラに就て、帰港後陸上調査により測定した結果は、2~3才魚が大部分で4才魚が僅か混成し、体長組成は43~47cm内外の出現が最も多く全体の52%を占め、体重組成1.800g~2.000gが全体の58%を占め、肥満度22.1を以て形成されてゐる。

4

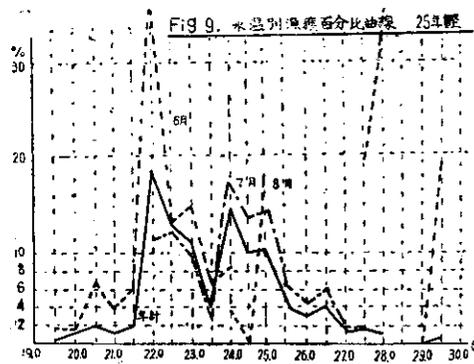
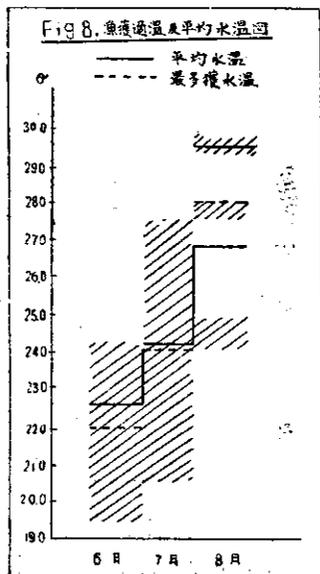
(3) 漁獲適温について

カツラ及びビンチヨウ鯨につき、本縣船による資料並に茨城丸の調査操業海區の資料から漁獲適温を求めた。(Fig.6~9.)

イ、ビンチヨウ鯨



ロ、カツラ



かつを漁業連絡試験表抜萃 (昭和二十五年第 1 次航海)

月	日	6-7	6-8	6-9	6-10	6-10	
漁場	符 號						
	位 置	緯 度	N35°-13'	N36°-43'	N36°-59'	N37°-23'	N37°-26'
		經 度	E140°-32'	E142°-00'	E142°-03'	E142°-07'	E142°-05'
視野にある船數	4	3	2	3	3		
気 象 海 況 観 測 時		12-00	12-00	12-00	06-00	12-00	
氣 象	天 候 雲 量	B 1	B 2	C 9	R 8	R 7	
	風 向 風 力	ESE 1	SE 1	S 6	SSW 2	SW 2	
	氣 壓	1.017	1.018	1.015	1.017	1.016	
	氣 温	21.0	22.0	24.0	23.0	23.0	
魚 群	種 類		烏 付	烏 付	烏 付	烏 付	
	大 小 濃 淡		中 淡	小 淡	中 濃	中 淡	
	餌 付		稍 良	不 良	稍 良	不 良	
漁 具	使 用 時						
	釣 鈎 使 用 數						
餌 料	種 類		丸4.1.51匁	丸4-1匁	丸1-1.5匁	丸1-1.5匁	
	數 量						
	價 格						
漁 獲	か っ ち を	大					
		中		4.000 μ	100 μ	2.000 μ	100 μ
		小					
獲	びんちよう						
	めばち						
	其の他						
備 考		4匁餌 54杯1.5~1匁 餌 121杯積込 み10h 鴨川出 港 NEに定針 観測点迄調査 開始	6h 烏付小群 に合せるも 無、9h30m迄 に小群多數に 合せるも全く だめ、9h30m 烏付中群に合 せ約 1.000 μ 附近調査し13 h30m 烏付中 群に合せ約3. 000匁、700~ 800匁20h漂泊	海況悪化のた め烏付小群に 合せるも餌付 なし。 18h より漂泊	6hより烏付小 群に合せ餌付 稍良し カツオ 600匁 ~800匁	烏付小群に合 せ餌付悪く附 近 調査 15h陸上より に調査し観測 中止し歸途に つく	

かつを漁業連絡試験表抜萃(昭和二十五年第三次航海)

月 日		7.4	
漁場	符 號	①	
	位 置	緯 度	35°-18
		經 度	142°-31
視野にある船数		0	
氣象海象観測時		12-00	
氣 象	天 候 雲 量	HB 7	
	風 向 風 力	SE 2	
	氣 壓	1.012	
	氣 温	26	
海 況	水 色 透 明	1~2	
	水 温	24.2	
	潮流方向速度	NE 1.5	
漁 具	使 用 時		
	釣 鈎 使 用 數		
魚 群	種 類	サメ付	
	大 小 濃 淡	小 濃	
	餌 付	ヤ、良	
餌 料	種 類	丸 1 匁	
	數 量		
漁 獲	か っ を	大	} 3,000貫
		中	
		小	
獲	びんちよう		
	めばち	800貫	
備 考		サメ付終日1回のみ 附近調査するも 群なし	

かつを漁業連絡試験表抜萃(昭和二十五年第五次航海)

月 日		7-26	7-27
漁場	符 號	M	L
	位 置	緯 度	27-46
		經 度	143-56
視野にある船数		0	0
氣象海象観測時		12-00	12-00
氣 象	天 候 雲 量	B2	B2
	風 向 風 力	SSW1	SE 2
	氣 壓	1,020	1,020
	氣 温	28.0	29.0
海 況	水 色 透 明 度	3	2
	水 温	26.4	28.2
	潮流方向速度	ENE2	ESE3
漁 具	使 用 時		
	釣 鈎 使 用 數		
魚 群	種 類		
	大 小 濃 淡		
	餌 付		
餌 料	種 類		
	數 量		
漁 獲	か っ を	大	} 3,000貫
		中	
		小	
獲	びんちよう		
	めばち		
備 考		10h 鳥付群2見る 16h よりESEの潮流を受く	4h ESE4の潮流を受く 午後よりNEの潮流強し 23h 那珂湊入港